令和４年２月 22 日

保 護 者 の 皆 様

枚方市立西長尾小学校
校長　武田　正道

令和３年度「学校教育自己診断アンケート」の結果について

春寒の候、保護者の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は本校の教育活動にご理解ご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、12 月に実施いたしました学校教育自己診断アンケート結果について、下記のとおりお知らせいたします。この結果をもとにこれからの学校運営をより良いものにしてまいりますのでよろしくお願いいたします（全体のアンケート集計結果はグラフにして裏面に掲載していますのでご参照ください)。ご協力いただきましてありがとうございました。

記

１．調査回答率

児童　89.9％（376 名/418 名）　保護者　65.1％（272 名/418 名）

２．結果の概要と分析

※ アンケートは「そう思う」を１とし、「そう思わない」を４とする４段階評価の選択としています。結果の特徴をとらえやすくするため１及び２を肯定的評価、３及び４を否定的評価として表現しています。前年度比較で上回ったところは＋、下回ったところは▲で表しています。

（１）主な共通項目について

	対象	設問	肯定的（前年度比較）
1	児童	学校に行くのが楽しい	89.9（▲0.1）
	保護者	子どもは学校に行くのを楽しみにしている	87.5（▲1.5）
2	児童	先生は自分たちの意見や考えを大切にしてくれる	94.3（▲0.7）
	保護者	先生は子どもの意見や考えを大切にしている	96.3（＋2.3）
3	児童	落ち着いた雰囲気の中で授業をうけることができる	79.1（＋3.1）
	保護者	学校は、落ち着いた雰囲気の中で授業を行っている	87.9（＋3.9）
4	児童	授業はわかりやすい	93.8（＋1.8）
	保護者	先生はわかりやすい授業づくりに努力している	96.3（＋5.3）

本年度は、「すべての児童が、心を通わせる力を磨き、いきいきと学ぶことができる学校」をめざして、「一人一人の居場所のある学級」、「わかる、できる、と児童が感じる、魅力のある授業」、「温かみのある、落ち着いて学ぶことができる環境」を重点に取り組んでまいりました。

上記４項目は、教育活動すべてにおける土台となる部分です。１につきましては、10%を超える児童が「学校に行くのが楽しい」とはいえない状態であることがわかりました。また、２につきましても、５％を超える児童が否定的な受け止めをしています。これらの児童の心の声をしっかりと受けとめ、それぞれの児童がより良い成長へと一歩前進できるよう、教職員一人一人が力量を高めていきます。また、保護者の皆様と丁寧に連携しながら、子どもたちが学校での学びを楽しみにできる環境の構築に取り組んでまいります。

一方で、３・４の項目につきましては、昨年度より数ポイント増加がみられました。保護者の皆さまのご理解とご協力という下支えのもと、教職員が教育活動充実への工夫・努力に取り組んだ成果として受け止めたいと存じます。今後もさらなる充実のために尽力してまいります。

【保護者用アンケート：肯定的な回答の割合が高かった項目】

「先生は子どもを、きちんとほめたり、叱ったりしている」「先生は子どもの意見や考えを大切にしている」「先生は子どものことを正しく評価している」等、教職員への信頼に関わる項目に高い割合で肯定的回答をいただきました。これらの内容については、さらに「誰も置き去りにしない」取り組みに引き続き努力していきます。

【児童用アンケート：肯定的な回答の割合が高かった項目】

「先生は私たちにわかるように、きちんとほめたり叱ったりしてくれる」、「先生はわたしたちの意見や考えを大切にしてくれる」、「授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されている」、「授業はわかりやすい」等の項目で肯定的回答の割合が高かったです。これらも児童の健やかな成長には欠かせない部分です。肯定的な回答ができなかった児童に、より目を向け、今後も「肯定的な回答１００％」を目標に努力を重ねます。

【保護者用アンケート：肯定的な回答の割合が低かった項目】

「子どもは家で、自分で計画を立てて勉強している」、「子どもは家で、『学習』の時間を決めている」、「子どもは家で、学校の授業の復習をしている」「子どもは家で、本を読んでいる」等、肯定的な回答が32%～42%と、低い割合となっていました。

家庭学習を促す最も大きな力となるものは動機付けです。「勉強って面白いな」、「楽しいな」、「がんばったらできたよ」などの、発見や感動、達成感をいかに学習の中で味わわせるかが大切だと考えています。学ぶ目的を意識できるようなキャリア教育の充実や、自己肯定感・有用感の向上を重点にした様々な教育活動を工夫し、児童に家庭での主体的な学習を促していきます。

ご家庭では、子どもたちが話す、「学校での気づきや感動」にアンテナを張っていただき、「達成感を褒める」、「子どもの発見や気づき、感動を共有する」という場面をつくっていただけますようお願いいたします。一緒に喜ぶことで、児童の自己肯定感は、さらに高まります。その自己肯定感が、「自分にもできる」「自分はこれができるんだ」という自信につながり、それが、やる気のエネルギーとなっていきます。

昨年度配付されたタブレット端末の扱いにも児童はかなり慣れ、タブレットドリル等への取り組みを主体的に実践させる場面も増えてきています。今後はそれらツールを使った学習だけでなく、本来の深い学びの実現につながるような取り組みとして、自主学習ノートへの取り組みに力を入れていけるように工夫していきます。ご家庭でも児童の主体的な家庭学習の場面を見つけたら、すかさず褒めてくださいますようお願いいたします。

【児童用アンケート：肯定的な回答の割合が低かった項目】

「家で、学校の授業の予習・復習などをしている」の項目への肯定的回答は66.1%でした。さらに「家で自分で計画を立てて学習をしている」66.9%、「本を読むことが好きだ」74.3%と、家庭学習等、自分の力で自分を磨いていくことや、新しい知識や気づきを得て成長していくことに関わる項目で比較的低い値となっていました。

主体的な学びのためには、児童自身の「学ぶ動機となる背景」が一人一人にとって重要です。キャリア教育では、学ぶ動機を児童自身が自分で見つけ、自分の学びの目的として位置づけられるようにするためのカリキュラムが用意されています。それらキャリア教育の取り組みと並行して、先述したとおり、自分はできるんだという自信や、自分が育つ実感を得る楽しさをより多く体験させることが重要です。今後はこれらの課題を組織的に共有し、家庭で主体的な学びができる力を子どもたちに身に付けさせていきたいと考えています。

３．学校教育をより良くするためのご意見欄にご記入いただいた事項について

賢明で建設的なご意見を多数お寄せいただきありがとうございました。また、多数のお褒めの言葉、激励のお言葉等もいただきました。それぞれ真摯に受け止め、今後の学校運営に活かしていきたいと存じます。特に全体に関わる部分の事項については次のとおりです。

【ご意見】

・タブレットの使用制限をつけてほしい。発達段階にあった指導をお願いしたいです。
・現代においてタブレットも大切かもしれませんが、書くこと、タブレット以外で調べる等も大切にしてほしい。

⇒　タブレットの扱いを通じて、「デジタル・シティズンシップ教育（情報テクノロジーの浸透している社会にあって、よき市民としてのあるべき振舞いについて主体的に考え、行動できる人材を育成する教育）」を推進していきます。

未来の社会を担う人材となる子どもたちにとって、テクノロジーの溢れる社会の中で、「テクノロジーをより良い社会の実現のために主体的にコントロールしうる力の土台となる考え方」を身に付けることを意識をした指導を重ねていきます。

それらを実現するためには「学ぶための力」を育てることが重要です。本校では、その土台として、汎用的想像力 ―― 「聴いて想像し、想像して書き、受け手を想像して伝える力」を涵養することを意識した取り組みを行っていきます。

【汎用的想像力を育む指標としてのアンケート項目の肯定的回答】

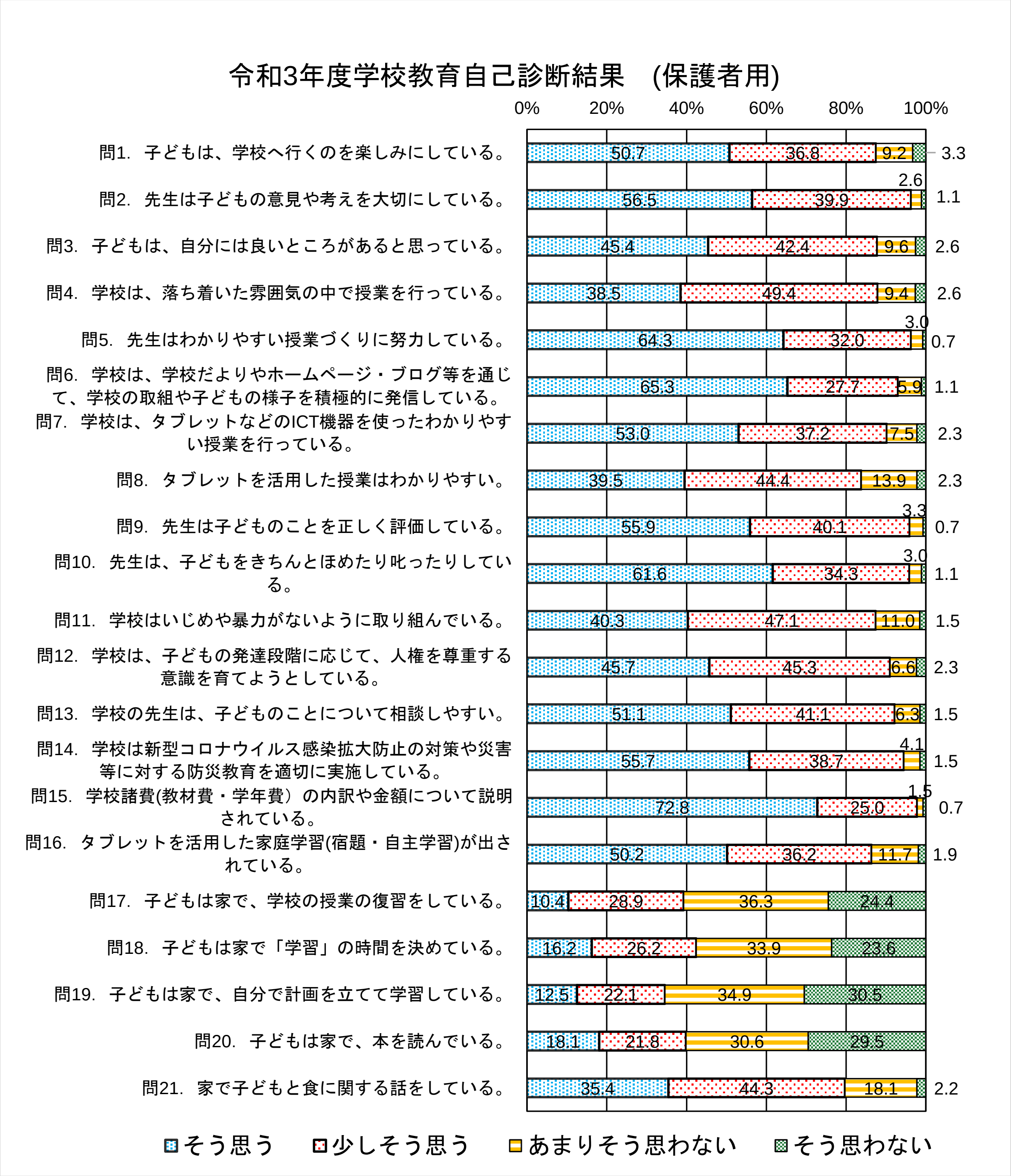
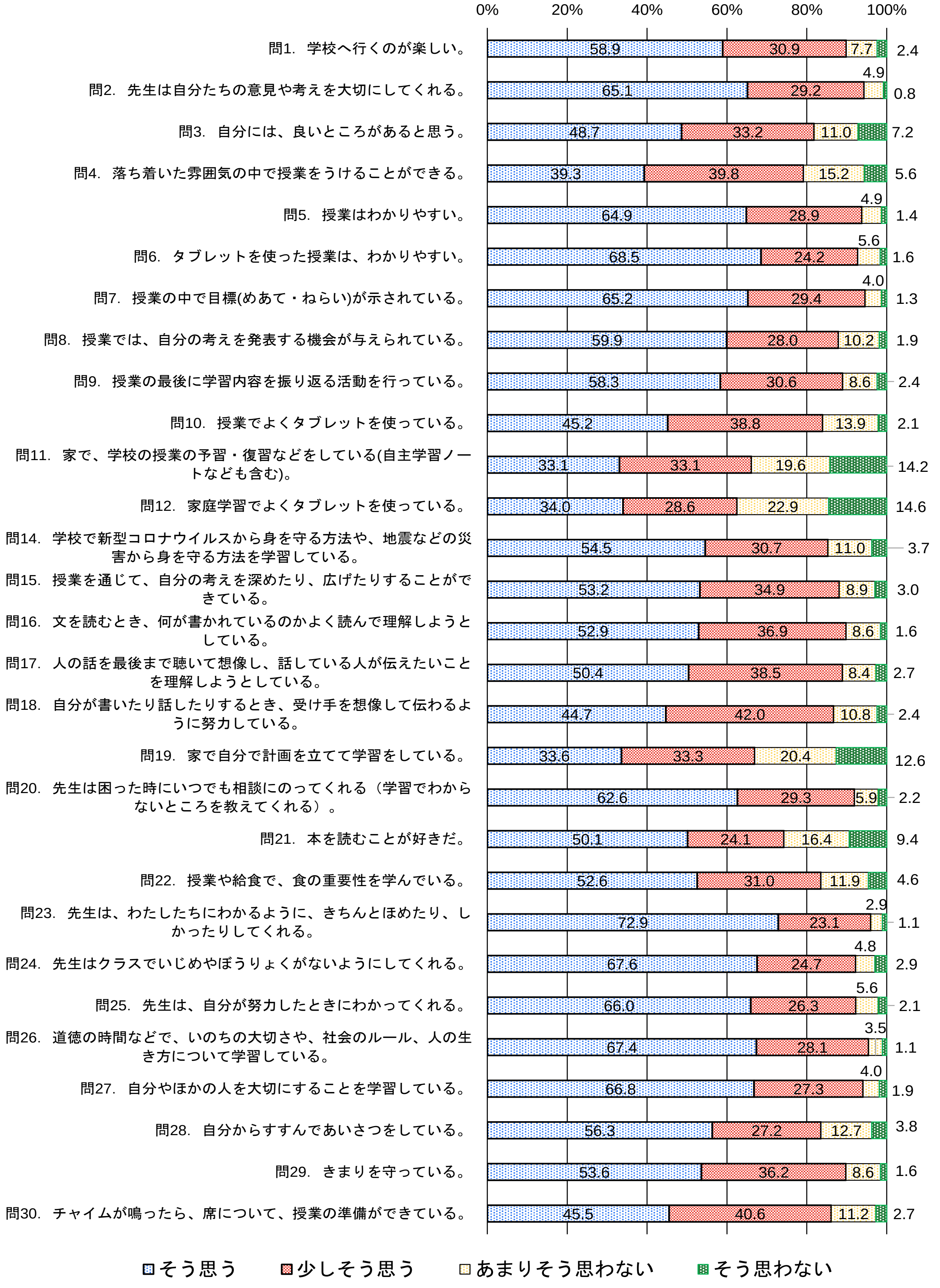
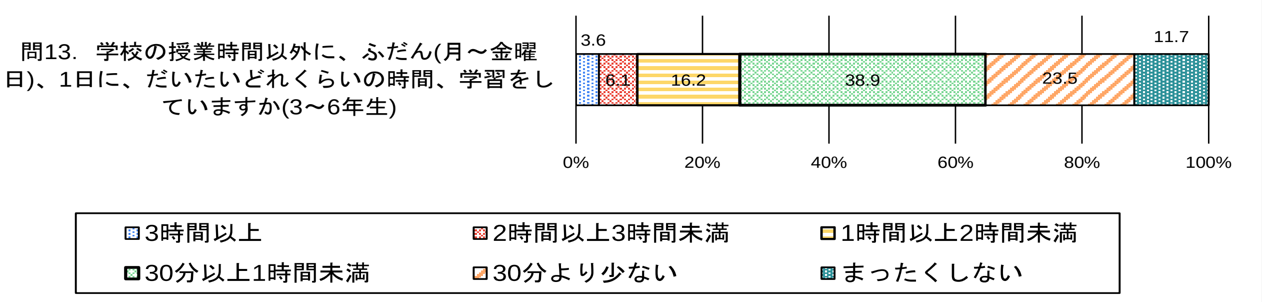
・文を読むとき、何が書かれているのかよく読んで理解しようとしている。　⇒89.8%

・人の話を最後まで聴いて想像し、話している人が伝えたいことを理解しようとしている。⇒88.9%

・自分が書いたり話したりするとき、受け手を想像して伝わるように努力している。　⇒86.7%

4．終わりに

今回いただきましたアンケート結果は、全教職員で共有し、来年度に向け、より良い学校をつくるために活用させていただきます。学校が、子どもたちの生きる力の土台作りの場となれるよう、教職員一同、努力してまいります。今後とも、学校への変わらぬご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。



令和3年度学校教育自己診断結果（児童用）